



平塚ロータリークラブ 週報

Hiratsuka R.C. Weekly



ロータリーは
機会の扉を開く

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

会長：鳥山 優子 副会長：清水 雅広 幹事：江藤 博一 クラブ会報委員長：葛西 敬

例会日 毎週木曜日 12:15～13:30

会場 グランドホテル神奈中 2F

事務局 平塚市松風町 2-10 平塚商工会議所内

連絡先 0463-23-5955 (事務局)

2020年12月10日 第 3288 回 週報第 3288 号

本日12月10日	会員数 64名	対象者 62名	出席者 41(41)名	出席率 66.13%			
前々回11月26日	会員数 64名	対象者 62名	出席者 46(45)名	出席率 73.02%	MUP 2名	計 48名	修正率 76.20%

上期情報集会報告会

テーマ「コロナに負けるな！コロナ禍での RC 活動について
～例会・親睦・奉仕活動をポジティブに考える～」

赤グループ 浅野康 幹事

リーダー：浅野康

メンバー：鳥山会長／江藤幹事／常盤会員／木村会員／
飯塚会員／永瀬会員／今村会員／秋山会員／守屋会員／
浅野

12月7日18時より赤グループによる対面での情報集会を開催し、ご意見を集約させていただきました。会場は、今村会員にご尽力いただき、萬善にて、クエ鍋とはいきませんでした、牡蠣鍋をメインに開催。赤グループメンバーは、鳥山会長、江藤幹事、常盤会員、木村会員、飯塚会員、永瀬会員、今村会員、秋山会員、守屋会員と浅野。参加者は8名（1名は挨拶のみ参加）で行いました。



いただいたご意見は以下のとおりです。

- このような状況ではあるが、やはり対面での活動が良い。やはり、顔を合わせることが重要である。状況に応じ、感染防止対策をしっかりと行い、スクール形式、お弁当でも現状は止むを得ないと思う。
- 地区における学友会の学生も、今年度は対面ができないため交流ができていない。学生たちは期限があるため、交流したいという要望があり、実際に集まってみたら、みんなが大変喜んで交流していた。やはり、一歩踏み出して活動した結果が良かった。
- 政府の動向により緊急事態宣言や外出自粛が強くなった場合は、リモートでの開催へ移行することは致し方ない。
- 今は、with コロナとして感染防止を第一にロータリー活動を取り組んで行かなければならない状況である
- ロータリーは財団や米山など組織、仕組みがしっかりできているため、どのような状況でもしっかり動く組織や人がいるため、活動や支援が止まることのないので、今できる最大限のことを実行していく。
- 今年度はできない事業が多く、事業費の余剰が出ているため、地区補助金を申請し寄付を行うことも視野に考える。具体的な寄付先は、医療機関や介護関連へ直接行うよりも、やはり平塚市を経由することが望まし

いと思われる。

- 会長、幹事でこのような状況を踏まえ試行錯誤し活動を考えている。例年通りのことが何一つできていないが、その時々々の状況を判断し、できることを見極めた活動を考え運営させていただいている。
- 感染症は人によって感じ方や考え方が違うことを踏まえ、安全かつ有効的な例会を対面で行う事を大切にやっていきたい。
- 今年はロータリー研究会もリモートで開催し、RI 会長から同時通訳で直接話を聞き感動した。今後、国際大会もどうなるか判らないが、対面でも非対面でもロータリアンとしての活動を継続していく。

最後になりますが、このような状況がいつまで続くかわかりませんが、できる限り会員の気持ち下がらないような創意工夫し、平塚クラブらしく会員みなさんと一緒にこの難局を乗り越えていきたいです。

以上

橙グループ 相山洋明 幹事

リーダー：相山洋明

メンバー：柏手会長エレクト／小笠原会員／成瀬会員／
升水会員／森会員／梅干野会員／元吉 会員／葛西会員／
豊川会員長島／会員／相山

〔要 旨〕

- RC 活動は親睦や交流が大切なので、感染防止策を徹底し、十分に気を付けながらも例会は開催していくべき。
- Zoomを使ったハイブリッド例会は出席率向上にも繋がるので、今後も取り入れるべき。
- 最新の機器を使って電子マネーが使えるようになれば、遠隔地からスマイルなども出来るようになるはず。
- これまでは呼べなかった遠方の方にも、卓話をしてもらう事が出来るなど、オンラインの良い点を活かした例会を工夫すればプラスになるのではないかと。
- このコロナ禍をむしろチャンスにしようと、『例会で残ってしまう食事を“フードシェア”アプリを使い、スマイルへ』のような、斬新なアイデアも生まれた。



〔内容〕

(豊川)

- 弊社の塾では従業員の検温・手指消毒・フェイスガードなどで感染防止対策を講じているが、RC 活動もそれらの対策をしっかりと取りながらであれば、過剰にやりすぎずに良いのではないかと。

(元吉)

- 現在のところ、十分に注意しながら例会を開催している平塚 RC 内での感染事例はなく、今のやり方自体は良いのではないかと。
- Zoom などを使ったハイブリッド例会をすることで、出席率が上がるようであれば、今後も取り入れるべき。
- スマイルも電子マネーを使えるようになれば、例会場まで来なくても良くなり、また管理も楽になる。

(葛西)

- スクール形式での対応はこの状況下では良いと思うが、新しいメンバーとの交流親睦が図りづらい。円卓の方が親睦を図りやすいと思う。
- Zoom ハイブリッド例会は、使い方が解らない人にやり方を指導してあげればよい。

(梅干野)

- RC メンバーは皆代表者なので、まずは感染しないこと、健康で出席できること、そして活動を続けていくこと。
- Xmas 例会もこの状況ではいつも通りは難しいと判断されたが、収まるまではやむを得ない。

(森)

- Xmas 例会を昼の開催にしたのは良い判断。この状況下では支店長クラスの皆さんは会社の方針で参加出来ないはず。その方が平等。

(柏手)

- 出来る限りリアル開催をする努力をする。
- 平塚 RC は他に比べ皆の協力の元、例会を正常に機能させることが出来ていると思う。それはしっかりとした土台があるから。その土台から次の事を考える。

(升水)

- この時代だから Zoom での開催も良いと思うが、本来は皆で会って親睦を深めることが大切。だからこそ出来るだけ出席をお願いしたい。

(高橋)

- このコロナ禍で奉仕活動が出来ていない。リモートでの開催も良いが、やはり対面で行いたい。
- 入会の浅い会員が休みがち、情報集会を増やしてみたらどうか。

(相山)

- この状況をチャンスと捉え、Zoom での例会がノーマルになるようであれば、普段参加出来ないメンバーも参加しやすくなり、出席率の向上につなげられるはず。また遠方の人(外国からも)に卓話に登壇してもらえるのではないかと。

(長島)

- コロナ禍に関係なくニューノーマル(新常态)を受け入れた改革も必要。
- リアル × デジタル(オンライン)の融合を目指す。
- 例会をオンラインと併用開催する。
- 奉仕活動、友好クラブ・姉妹クラブ訪問、研修会、各年間行事のオンライン参加やネット配信を可能にする。

- 卓話のネット配信。
- 例会で残ってしまう食事を“フードシェア”アプリを使い、スマイルへ。
- “スマイル”や寄付金の電子マネー化。コメントもデジタル活用。(欠席時もスマイルしやすい環境)

黄グループ 松本崇 幹事

リーダー：松本崇

メンバー：清水孝一会員／関口会員／柳川会員／志村会員／松本

【例会について】

- ホームページやオンラインなどをもっと活用していければ良い
- 会員しか見る事ができないように動画配信し、欠席者も後で見られるようにする
- 他クラブのコロナ禍での例会活動を収集する他クラブの良いところをどんどん取り入れ発展させ一歩進んだ平塚 RC を目指したい



【親睦について】

- コロナの感染拡大状況に合わせやらない勇気も必要
- クラブ全体で親睦を深めるような活動が難しい場合は委員会単位で少人数での企画が良いのではないかと
- 又は10名程度の小グループに分けての交流が良い
- 家族あつてのRC活動なので、家族が参加できる親睦が必要。クリスマス例会の余興を動画配信やビデオ録画を後日DVDで家族に配るなど家族も楽しめると良いのではないかと

【奉仕活動について】

- 平塚 RC は奉仕活動をととても良くやっているクラブだと思う
- コロナで空いた時間を活用し今までの奉仕活動を再検討する時間を設けてはどうか
- 一度リセットし良いものは残してやってない事にチャレンジ!
- コロナ禍で使わなかった予算をコロナで困っているところに使う
- 「隠匿の美」がRC奉仕活動の基本。この心を忘れなければコロナ禍でも奉仕活動は十分にできると思います
- ポリオ撲滅に関してはイベント時での募金活動が多いためほとんど出来ず・・・コロナ禍ではポリオについて知っていただく活動が必要

緑グループ 又城雅弘 幹事

リーダー：又城雅弘

メンバー：牧野会員／清水雅広会員／米山俊二会員／嶋田会員／丸茂会員／原田会員／又城

【クラブ例会について】



- リモートによるオンライン例会を考えて行くべきだとのご意見が大半を占めました。

その中でも出来る限り対面での例会を考えるべきとのご意見も多々ありました。

- またリモートにした場合普段ではお呼びできないような方からでもお話を伺える可能性もあるのではないかとご意見も出ました。



【親睦について】

- 当面は多人数での飲食を伴う懇親会は良く考えてからにした方が良い。
- 会員がインタビューを受けて録画したものを例会場にて皆で見ながら食事をする。

【奉仕活動について】

- 選択と集中だと思います。いまのタイミングにおいて意義があるものに対して、例えば「医療従事者やその家族」、「支援が必要な一人親世帯や学生」等に重点を置いてやっていく。

【その他について】

- オンライン例会においてズーム等のフリーアプリはセキュリティに問題がありそうなので、良く調べてから採用した方が良いと思います。

青グループ 渡邊美和 幹事

リーダー：渡邊美和

メンバー：白石会員、永井会員、山口会員、片野会員、瀬尾会員、鈴木忠治会員、鈴木成一会員、渡邊、事務局吉野

去る11月26日、神奈中グランドホテル松風にて青グループ情報集会を行いました。出席9名と、忙しい中たくさんの方々に集まってくれたこと、誠にありがとうございました。

前回の情報集会もテーマはコロナ禍でのロータリー活動というものでしたが前回と今回で大きな違いがありました。前回は自粛の中慣れないズーム等リモートで例会を行う等リアルとデジタルを融合させるといった意見が多かったと記憶しています。今回も方向は同じなのですが、安全性を確保しながら出来る限り顔を合わせてコミュニケーションをとることが大切であり、リモートは次善の策、と優先順位がはっきりしてきました。この半年でデジタル媒体は大分身近なものとなりましたが、やはり実際に顔を合わせた会話でないと伝わりづらいものが多いということを実感してきたせいでしょう。我々



の実業についてもいかにコロナと出来る限り折り合いをつけた上で途切れさせずに経済活動を発展させていくかを模索することが重要であり、それが街や人々を活性化することに繋がるとの意見がございました。

一方で普通的手段となったリモートツールなども使います。今回留学等国際交流も儘らなくなりましたが、皆で集まっての報告会や情報交換会は難しくても出来る範囲で、WEB面談等使いながら繋がることで、再開できた時更に活動の幅を広げられるのではないのでしょうか。留学先からリモートで近況を伝えて貰ったり、複数の留学先と例会を繋いで悩み相談を行う等。時差のある先ではビデオメッセージも簡単にやり取りできそうです。

奉仕活動についてはこれからも医療機関の負荷はまだ増えることになると考えられることから医療機関への寄付を望む声がございました。既に行っている活動ですが、地域の為にも我々皆の為にもなることだと思います。以上、拙い纏めで申し訳ございませんが集会の発表とさせていただきます。

紫グループ 近藤憲司 幹事

リーダー：近藤憲司

メンバー：大島会員／福澤会員／杉山会員／小野会員／高橋建二会員／平井会員／近藤

【発表内容】下記の通り

- コロナに負けない体づくりを食事や睡眠・運動、飲み過ぎない等、免疫が下がらないようにしつつ、週2回を目安にゴルフや釣りをして、心身ともに健康でいることが必要。
- 福澤さんがお持ちの平塚近くの主なゴルフ場のグリーンの芝目・傾斜情報を販売してはどうか？パットの時間が短くなり、グリーン上の密も避けられるのでは？という意見も。
- 趣味の時間も大切。福澤さんは絵も描かれるとのこと、平塚八幡宮にも寄贈されていらっしゃるようですが、この度、12月10日から16日まで「湘南画廊」にて、個展を開かれます。是非お越しをお待ちしておりますとのこと。
- 会長や幹事の方をはじめ、徐々に運営の仕方をうまく変化させてくださっている。出来る範囲でそれぞれが出来ることがしっかりやっていくしかない。また、ロータリアンとして一人ひとりが、どんどん参画・意見具申もしていくことも必要。
- オンラインやデジタルの活用はますます必須に。苦手意識を持たず、会えない時もつながっている環境作りが大切。
- 上野RCでは、紙のマスクケースの内側に抗ウイルスの素材を塗った紙のマスクケースを小学生に寄贈している。こういう時だからこそ、ロータリーの取組で地域貢献していくことは出来ないか？
- コロナ特別支給の申請や、金融会社のコロナ取組・風向きについても関連な意見交換が出来た。
- コロナを適切に恐れて対策をしながら、新しい取り組みや変化も受け入れつつ、やはりフェイストゥフェイスでのつながりも大切にしていきたい。



会長報告

地区補助金申請 2020-21 年度実施プロジェクトの「ミャンマーの子供たちに楽器演奏を」について、皆さんにご報告があります。今年度におけるこちらのプロジェクトについては新型コロナウイルス感染症にかかわる諸般の事情を鑑み、大変残念ですが、正式に中止が決定いたしました。

ミャンマーは3月31日から、国際旅客便の着陸禁止措置をとっており、12月10日現在、我々は入国できない状況となっております。一部緩和された措置もありますが、仮に入国できる条件が揃ったとしても、出国前の検査や待機期間により往復するだけで一月近く時間を要します。また現地での集会禁止措置がとられていることなどからも、プロジェクトの遂行は困難と判断し、中止といたしました。

楽器の手配の準備も整い、楽器だけでも送り ZOOM 等を使い現地とコミュニケーションをとることも考えました。しかし本プロジェクトは補助金を使う事業である以上、モノを送り遠隔だけで完結させることは望ましくないことから、やはりそれも難しいということになりました。現地に赴き、先生方に楽器の使い方を教え、子供たちを集め、アンサンブルをする。子供たちに音楽に親しむきっかけを与え、可能性を広げる一助になればと思っていただけに、非常につらい決断でした。

しかし私は、このプロジェクトをこのまま終わらせてはいけなく考えています。そこで柏手会長エレクトと話し合い、本プロジェクトは、次年度の事業として引き継ぐことが決まりました。今年度実施できないことは非常に残念ではありますが、継続してプロジェクトを進められることにまずは一安心しております。

来年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。史上初の1年延期のオリンピック・パラリンピックです。またワクチンも開発されるなど、少しずつ希望の光が見えてきたような気がします。

2021 年はきっと今より良い年になる。「ミャンマーの子供たちに楽器演奏を」も、次年度に引き継がれることによって、より素晴らしい事業になると信じています。

幹事報告

◎昨日、ポリオ・プラスへの寄付として、一人\$40ずつ 会員64名分をロータリー日本財団へ送金致しました。今月のロータリーレートは¥105ですので、円換算で、一人¥4,200となります。領収証は来年2月初めにお渡し致します。

◎12月12日(土)第6回インター・ローターアクト委員会が Zoom にて 13:00 より開催されます。瀬尾インターアクト委員長が参加されます。

◎12月12日(土)14:00 より青少年交換オリエンテーションが Zoom にて開催されます。元吉青少年交換委員が出席されます。

委員会報告

○親睦委員会 志村拓委員

12/24のクリスマス例会は夜間例会の予定でしたが、12/3の理事・役員会で通常例会と同じ時間で開催と変更になりました。変更理由としては新型コロナウイルスの第3波の影響を受けての判断となります。楽しみにされていた会員、ご家族の皆様には大変申し訳ございませんが、ご理解いただけますと幸いです。開催は12/24の12:30~13:30で、会場は通常の例会場となります。

○職業奉仕委員会 白石慎太郎委員長

今年度の企業訪問は2/16(火)に富士スピードウェイで自分の車でのサーキット走行会となります。走行はされないけれど富士スピードウェイに行ってみたいという方は相乗りでご参加していただくことが出来ます。日頃のストレスを、アクセルを思いっきり踏んで吹き飛ばして頂きたいと思います。

メイクアップ (MUP) 2名

小林誠会員、山口紀之会員

本日のスマイル 16名と情報集会5グループ

ゲスト 0名

ビジター 0名

卓話・行事予定

12月17日(木) 公益社団法人平塚青年会議所
理事長 数田俊樹様
12月24日(木) クリスマス例会
12月31日(木) 休会

市内例会変更

平塚南RC 11/27 休会 ⇒ 通常例会

